

れんごう

2013. 5. 16
第 5 号 通算 183 号
日本労働組合総連合会新潟県連合会
県央地域協議会
(連合県央地協)
〒955-0044 三条市田島2丁目22-36
TEL 0256-32-6363 Fax0256-32-6490

第84回メーデー 5月1日(水)県央三地区で開催

県央エリアの3地区(西蒲燕・三条・加茂地区)は、第84回メーデーを例年通り、5月1日(水)に「安心社会」をテーマに開催し、会場内で東日本大震災に係る「あしなが育英会」震災遺児募金やアトラクション、講演など、それぞれが工夫を凝らしたものとなりました。

『三条地区メーデー』

三条市総合体育館に約700名が参加し、宮口実行委員長は、「私たちはこれまでメーデーで働く者の権利を守ろう!」「戦争や紛争のない真の世界な平和をつくろう!」と訴えてきました。「第84回メーデーのテーマは【安心社会】です。本当の景気回復は、地域の暮らしにしっかりとお金が回り、働く者の処遇改善に反映されなければなりません。働けることの喜びを受け止め、働くことを通して、生活を支え、地域を支えていきましょう!」と呼び掛けました。

国定勇人三条市長は「地場産業の活性化施策を展開し“三条のものづくり”を支えていく。若年者雇用拡大奨励金制度を設けた。みなさんといっしょに三条から元気を発信していきましょう!」と取り組み施策を披露。民主党菊田代議士は、厳しかった衆議院選挙の御礼や祝辞、続いて社民党三条支部協議会有坂代表、労働金庫、総合生協から祝辞を受けました。特別決議、メーデー宣言の中で、労働者の団結と継続した東日本大震災支援を確認し、団結ガンバローで式典を締めくくりました。第2部アトラクションは「いからし工房」のみなさんの太鼓演奏を行いました。



みんなのでつくろう! 働くことを軸とする安心社会

『西蒲・燕地区メーデー』

西蒲原燕地区メーデーを吉田産業会館で開催し、約200名が参加しました。海津実行委員長は「安心社会を求めているが、労働環境の実態は、35%を超える非正規雇用、全国的にも低い新潟県最低賃金689円など厳しいままとなっている。働く者の権利と暮らしを守るためにも仲間が必要、労働組合が必要」と労働組合をアピールしました。



をアピールしました。



鈴木燕市長から「新しい庁舎が完成した。防災や福祉など住みよい環境づくりを進めたい。」と抱負があり、続いて、鷲尾代議士他、各団体の方々から祝辞を受け、メーデー宣言を確認し、あいにくの天候でしたが、デモ行進の途中で雨も降らず終わることができました。

『加茂地区メーデー』

加茂地区メーデーは、加茂市民体育館に200名近くが集まり開催しました。中山実行委員長は「テーマとなっている“安心社会”をつくるため、心を一につに働けることに感謝し、支え合い、平和を希求していこう!」と挨拶しました。小池加茂市長からは「安易な憲法改正や軍国主義化を警戒しなくてはならない。そのために労働組合も奮起すべき」とエールがありました。その後、菊田代議士などから祝辞を受けました。講演会で、上越教育大学准教授の田島弘司氏の「笑いヨガで明るく楽しく元気に!」があり、会場で身体を動かし“笑うことの大切さ”を学びました。



東日本大震災遺児募金「あしなが育英会」募金

- ・三条地区メーデー 43,894円
- ・西蒲燕地区メーデー 18,950円

労働金庫を通して振り込みを完了いたしました。あたたかいご支援ありがとうございました。

いまこそ、暮らしの底上げを!



アジア・アフリカ救援米「田植え」を行いました



5月12日(日) 天候も回復し、お日様も顔を出す中、子供さんを含め100名ほどが参加し、アジア・アフリカ救援米田植えを実施しました。田んぼに足を取られ、泥んこの子どもたちの歓声

の中、1時間ほどで田んぼ1枚の田植え

を終えました。上林公民館に移動し、餅つきやビンゴゲームで楽しみました。

世界では、まだ食糧不足があることなどをみんなで考えながら、一緒についたお餅と具たくさんの豚汁でお腹をいっぱいにした楽しい一日でした。



三条市議会議員「藤田博史(ひろふみ)」さんを連合推薦



三条市の政策課題や連合地協の運動などで連携を重ねてきた、三条市議会議員「藤田博史(ひろふみ)」さんと政策協定を結び、連合推薦議員としました。構成組織の皆さまのご支援をお願いいたします。

◇藤田博史(ひろふみ)

- ・生年月日 1969年11月11日 43歳
- ・所属政党 民主党 ・市議会会派 新しい風

(推薦決定機関)

連合県央地協第4回幹事会 3月13日

連合新潟第5回執行委員会 4月17日



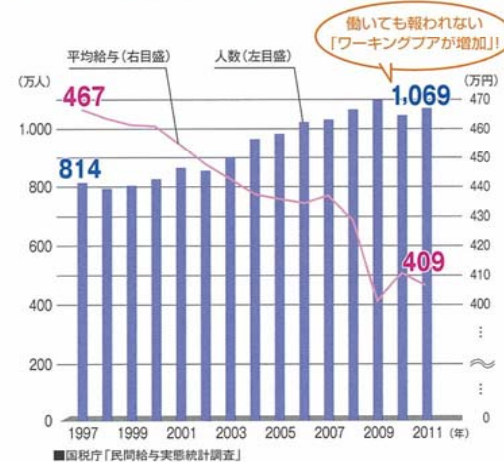
- 連合県央地協 第24回地協委員会
 - ・日時 7月2日(火) 18:15~ 燕三条地場産センター
- 青年女性委員会主催 スポーツ交流会
 - ・日時 7月12日(金) 18:00受付 POPポウル県央

連合は、「STOP THE 格差社会! 暮らしの底上げ実現」キャンペーンを通じ、「働くことを軸とする安心社会」の実現に取り組んでいます。

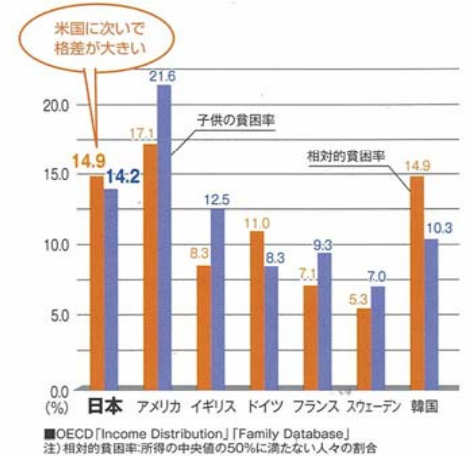
なぜ、いま取り組むのか

雇用と労働条件は傷んだまま、さらに格差が広がる懸念があります。

年収200万円以下の人数と平均給与の推移



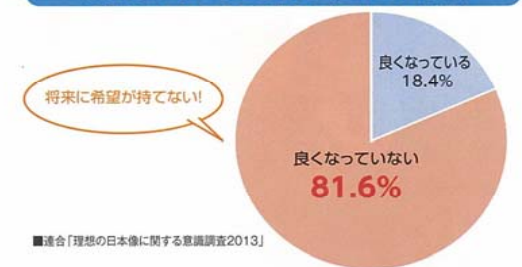
貧困率の国際比較(2000年代半ば)



2012年9月の賃金不払い残業の実態



1年後の日本は今より良くなっていると思うか(2013年1月時点)



さらに「労働分野の規制緩和」「最低賃金は不要」「生活保護基準の引き下げ」の声があがるなど、雇用や労働条件などの一層の悪化が懸念されます。



働く者の雇用と労働条件の改善をはかり、国民の暮らしを底上げしなければ、我が国の再生もあり得ません。

私たちは、「働くことを軸とする安心社会」か「格差社会」かの分かれ道に立っています。連合は、「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざし、組合員への理解活動とキャンペーンへの参加促進とともに、共に運動する仲間を増やし、街宣活動などを通じた世論喚起を行っていきます。